

令和5年度 江戸川区立第六葛西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	◎考える子◎思いやりのある子◎やりぬく子◎元気な子 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	◎児童一人一人が、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ◎主体的に考え活動し、他者と豊かにかかわる子供 ◎自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・校内研究や若手育成研修の充実により、教員の学ぶ意欲がより一層向上した。 ・ICによる文房具のように使えるようになり、深い学びに着目した授業を構築できた。・6年生は全国学力調査の算数で、都の平均正答率を上回った。 <課題> 他の学年も学力向上を目標に、基礎・基本の定着を図る。	

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	来年度に向けた改善策	
				取組	成果と課題			
＜学力の向上＞ 授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、基礎学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実		・一人一台端末やIC機器を積極的に活用して、多様な学びの実現を図る。(校内研究3年目) ・各学年1回の江戸川study week 1の実施を通じて、家庭での学習への活用を促進する。 ・外部委託による放課後補習教室(2～6年)を導入し、6年生の教科担任制や各学年での交換授業を実施する。 ・有3学期の校内授業観察会、校内研修や月1回程度の若手教員育成研修(フレッシューズの会)を実施する。 ・5年生における学習向上プロジェクトを実施する。 ・8年生の区小教研や各種研究会での学びを校内に広げる。	・児童アンケート(江戸川study)で学習の役に立っているか、学習の満足度が80%以上になるように学習意欲の活用を推進する。 ・IC機器の家庭学習での活用率を向上させる。 ・東京ベネッセデジタルリテラシーの正答率(2～6年)を70%にする。 ・保護者アンケート(先生たちは、わがやがやれい)を実施し、授業を工夫している。学習意欲の活用を80%にする。 ・東京ベネッセデジタルリテラシーを4月、9月、1月実施し、確実な算数の学力向上を図る。	A	B	・保護者アンケート(先生たちは、わがやがやれい)を実施し、授業を工夫している。学習意欲の活用を80%にする。 ・東京ベネッセデジタルリテラシーを4月と9月に実施した。1月に実施し、確実に算数の学力が向上するようになっている。	・タブレットの長所と短所を踏まえて学習計画を立てるが、これまでの学習とのバランスを図る。 ・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一律化し、引継ぎ研修職員の養成の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・校内研修を体系的・効果的に実施し、情報共有することで学校全体の学力向上を図る。 ・朝学習を中心として、東京ベネッセデジタルリテラシーの活用を推進する。 ・来年度は研修機会を使った読解力向上取組を活用し、読解力向上を目指す。	
		・学習者の異なる充実 ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書コーナーを活用する。 ・江戸川1区各学習センターに向けて、情報の活用を既成の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。 ・区立図書館と読書推進連携を各学年で年1回実施する。 ・区立図書館職員や読み聞かせボランティア、図書館ボランティアと連携する。 ・江戸川区教育委員会推進事業による学校訪問による読書推進の指導講演をいただき、指導力向上を図る。	・90%以上の学級で江戸川1区各学習センターに向けて、読書カードを活用した授業を行う。 ・読書推進ボランティアと協力し、すべての学級で読み聞かせを月に1回以上実施する。 ・読書推進ボランティア協会で月2回学校図書館を開放する。 ・区立図書館職員によるブックトークを各学年年1回以上実施する。 ・読書月間に教職員による本の紹介を行う。	●江戸川子ども読書ネットワークに向けて、全学級で読書カードを活用しながら、図書を使った探究的活動を行った。毎月4回程度に必要書類の取集、分析、整理、それに対する自分の考えを表現する活動が定着している。引き続き自分の考えを表現する活動を行う。 ○読み聞かせボランティアによる月1回の読み聞かせを行った。 ○読書推進ボランティアや区立図書館職員と連携し、図書室の整備や図書室の整備やバーコードシステム導入作業を行った。 ○9月の読書月間期間に、教職員によるおすめの本や紹介文を図書室に展示したり、全学年で西葛西図書館職員によるブックトークを実施したりした。 ○江戸川区教育委員会推進事業による学校訪問による読書推進の指導講演があった。読書推進力向上を図る。	A	B	・読書月間に教職員による本の紹介を行う。 ○読み聞かせボランティアによる月1回の読み聞かせを行った。 ○読書推進ボランティアや区立図書館職員と連携し、図書室の整備や図書室の整備やバーコードシステム導入作業を行った。 ○9月の読書月間期間に、教職員によるおすめの本や紹介文を図書室に展示したり、全学年で西葛西図書館職員によるブックトークを実施したりした。 ○江戸川区教育委員会推進事業による学校訪問による読書推進の指導講演があった。読書推進力向上を図る。
＜運動意欲や基礎体力の向上＞ 運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実		・休日を時間を活用した運動会(1日)(スゴタイ)を2回実施する。(たてわり運動び、長縄、短縄、持久走など) ・体力アップ重点月間を実施する。	・スゴタイを全学年に3回実施する。 ・6月実施の体力テストにおいて、平均値を都平均値より1割以上高くする。 ・9月1日および月間、ランニング月間を実施する。 ・運動会での肯定的評価90%にする。	A	A	・運動会や子供たちの一生懸命頑張る姿を見て、子供たちの成長を感じるとともに、このよき素晴らしい姿ができたことが、保護者の方々の喜びにつながっている。引き続き、子供たちの一生懸命頑張る姿を見て、子供たちの成長を感じるとともに、このよき素晴らしい姿ができたことが、保護者の方々の喜びにつながっている。	・天気の良い日は元気なみんなので外で走り回り、スポーツをたのむ習慣をもっと増やしていく。 ・児童同士が良い、教師と一緒に外で走り回り活動することによって、児童が主体的に活動することによる意欲を高めていこうとする。 ・全学年は体力向上への意欲が読書推進の定着を図るとともに、読書を活用した取組も実践していく。	
		・体力テスト結果における分析及び活用の充実	・体力テスト結果で課題のある学級について、スゴタイや体育の授業で工夫をする。	・体力テスト結果が楽しいと感じる児童の肯定的な回答が85%以上になる。	○体力テストは実施済み。結果が喜ばしく、児童の意欲が向上してきている。 ○今後の体育の授業でも、体を動かすのが楽しいと感じる児童を増やしていく。	A	A	・始めに全員でおこなったこととして音楽を流しても良かった。楽しいと感じている児童が増えている。 ・休み時間、先たちも一緒に外で遊んでいる姿をよく見ると、子供たちはいつも楽しそうである。
民生社会の実現に向けた教育の推進		・特別支援教育の推進 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた応じた支援の充実・充実 ・ユニバーサルの活用促進 ・副読本、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援が必要な児童への学校生活支援シート・ユニバーサルデザインを作成し、一人一人のニーズを把握する。 ・特別支援教育委員会年11回実施する。 ・特別支援教育専門員、スクールカウンセラー、特別支援教諭(巡回指導教員)との連携を図る。 ・特別支援教育研究研修を年1回実施する。 ・履修記録を実施する。	・連携・支援を受ける児童の把握を100%にする。 ・特別支援教育委員会の年11回実施を達成する。 ・特別支援教育研究研修の年1回実施を達成する。 ・手紙による学習交流2名、直接交流2名を行う。	A	A	○連携・支援を受ける児童の把握を100%にする。 ○特別支援教育委員会年11回実施を達成する。 ○特別支援教育研究研修の年1回実施を達成する。 ○手紙による学習交流2名、直接交流2名を行う。	・先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。 ・児童の様子や行事の進めかたが分かることで、先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。 ・児童の様子や行事の進めかたが分かることで、先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。
		・子どもたちの健全育成に向けた取組 ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QLの活用	・毎週金曜日に生活指導委員会を行い、児童の情報や対応、生活指導連携協議会の報告などを共有する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。	・毎週金曜日に生活指導委員会を行い、児童の情報や対応、生活指導連携協議会の報告などを共有する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ・ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。	○生活指導連携協議会を毎月実施し、校内の課題について共有している。 ○ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ○ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。 ○ふれあい月間(児童アンケート)を実施し、活用する。	B	B	・休み時間や行事の進めかたが分かることで、先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。 ・児童の様子や行事の進めかたが分かることで、先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。 ・児童の様子や行事の進めかたが分かることで、先生が一人一人の個性に合わせて関わりをすることが大変重要だ。
地域に広く開かれた学校(園)の実現		・自校(園)の取組の積極的な発信 ・学校(園)ホームページの充実 ・学校(園)公開の実施・充実 ・学校説明会のお知らせを載せる。	・保護者アンケート学校だよりホームページなどで情報を発信している。学習意欲の活用を95%以上にする。	A	B	・保護者アンケート学校だよりホームページなどで情報を発信している。学習意欲の活用を95%以上にする。	・保護者アンケート学校だよりホームページなどで情報を発信している。学習意欲の活用を95%以上にする。	
		・学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者や地域、学校関係者などからの日常の連絡や個別面談、運動会・学校公開・音楽会など行事の進捗への評価を行う。	・保護者や地域、学校関係者などからの日常の連絡や個別面談、運動会・学校公開・音楽会など行事の進捗への評価を行う。	○保護者や地域、学校関係者などからの日常の連絡や個別面談、運動会・学校公開・音楽会など行事の進捗への評価を行う。	A	B	・保護者や地域、学校関係者などからの日常の連絡や個別面談、運動会・学校公開・音楽会など行事の進捗への評価を行う。
特色ある教育の展開		・PTA活動の充実 ・様々なPTA活動を通して健全な児童を育成し、学校の教育活動への理解・協力を得られるようにする。 ・保護者が交流をもちながら子育てを楽しみ、相談できる環境を整える。	・PTA行事年2回の教員参加を目指す。 ・PTA行事年2回の教員参加を目指す。	A	B	・PTA行事年2回の教員参加を目指す。	・PTA活動については、来年度ボランティア制を導入することになり、今後よりよい活動が実現できると期待している。	
		・学校における働き方改革プラン ・学校における働き方改革プランに基づく取組の実施	・SSSを効果的に活用する。 ・児童の学習意欲を高め、保護者に開く。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。	・SSSを効果的に活用する。 ・児童の学習意欲を高め、保護者に開く。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。	・SSSを効果的に活用する。 ・児童の学習意欲を高め、保護者に開く。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。	A	A	・SSSを効果的に活用する。 ・児童の学習意欲を高め、保護者に開く。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。 ・会議・打ち合わせ内容の精選化する。